

高齢者の社会参加を促す工芸プログラムに関する試験・研究開発（第6報）

－ NPO 法人なんぶ民藝らとの共同研究による体験プログラムの実用性調査 －

Study on craft programs to promote social participation among the elderly (6th report)

－ Field research conducted jointly with NPO Nanbu_Mingei on the craft experience program. －

赤田 朝子、濱田 圭、工藤 洋司、山田 友子*、川守田 礼子**

(*NPO 法人なんぶ民藝、**八戸工業大学感性デザイン学部)

本報では、昨年度開発した「菱刺模様小箱」の工芸体験プログラムについて、外国人旅行者を想定して実施した体験会について報告する。

体験会は、NPO法人なんぶ民藝と八戸工業大学の協力を得て、令和7年11月12日に八戸工業大に於いて同校の外国人研修生11名（男性9名、女性2名）を対象に実施した。研修生はミャンマー出身の20～30代（未確認）で、来日して1週間程度とのことであった。体験プログラムは全体85分、①導入部分10分（簡単な自己紹介、川守田教授による南部菱刺し紹介、山田氏による実演）、②体験55分（途中説明5分）、③まとめ20分（感想、アンケート、記念写真）で構成した。外国語対策として、講義（菱刺し紹介）と実演の際には翻訳アプリによるミャンマー語への同時通訳をサイネージ表示し（図1）、ステップバイステップの写真入り手順書を配布した。体験は3～4人の3グループに分かれて実施し、各テーブルに補助スタッフ2名を配置した。体験会の様子はビデオ撮影で記録し、体験後に参加者の感想をアンケート調査した。

職業研修生ということもあってか、参加者のほとんどは集中して取り組み、楽しむ様子が多くみられた。時間内に1名を除いてほぼ完成し、アンケート調査の結果から「少し難しいと感じながらも飽きずに楽しめる」工芸体験となっていることが判った（図2）。また、外国人への対応策のひとつとして、今回の準備は有効であった。

今後の課題・反省点として、①導入説明：ガイド線の使い方をより丁寧に説明すれば、混乱を防いで全体時間の短縮に繋がる可能性があった（特に大人数の体験会で有効）。②各工程の説明タイミング：作業時間の個人差が大きいので、糸の継ぎ足しや端の始末などの助言タイミングが難しかった。個別にできない場合は、全員に早めに説明することで進行がスムーズになる可能性がある。

今後は、キットの商品化を進め、キット利用事業者に体験プログラムを紹介していく。



図1 体験会の様子

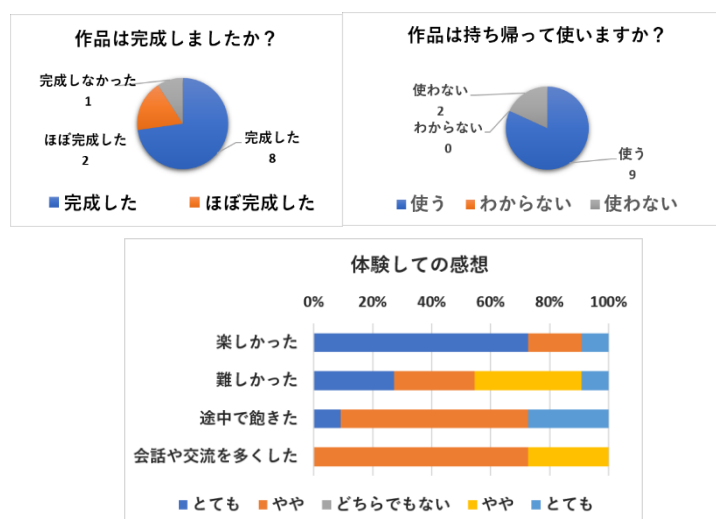


図2 体験会参加者へのアンケート調査（抜粋）